精神科

大江病院

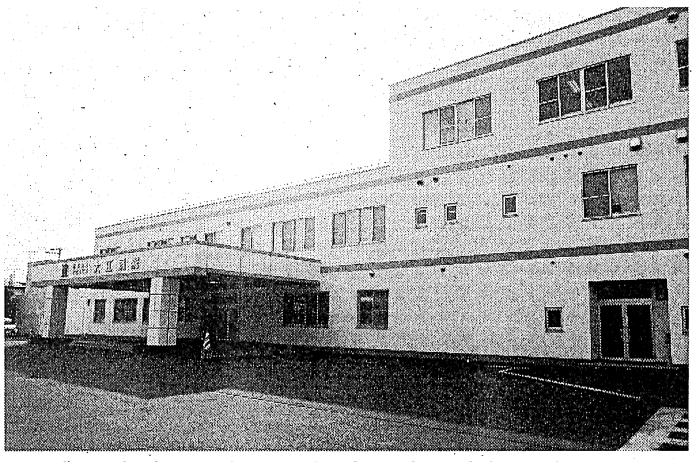
顔の見える関係づくり

認知症総合支援10市町村でチーム

認知症の早期発見・的確な診断へ、2018年4月までに全ての市町村で「認知症総合支援事業」がスタートする。十勝地域では、大江病院（大江徹理事長、大江平院長・154床）が、十勝総合振興局からの要請を受け管内10市町村と連携しい早く認知症初期集中支援チームを設立。十勝方式の認知症支援体制を構築した。

◆

14年の介護保険改正によって認知症総合支援の事業化が定められた。認知症地域支援推進員を配置し、医療介護等の連携強化などによる支援体制構築や認知症ケアの向上を図る「認知症地域支援・ケア向上事業」と、認知症患者やその家族に早期から関わる「認知症初期集中支援チーム」により早期診断・治療に向けたサポート体制を構築する「認知症初期集中支援推進事業」に取り組む。



大江病院は長年の認知症治療の実績を生かし、中心的な役割を担っている

認知症初期集中支援チームは、認知症サポート医を含めた医療・介護職が合同で、多様な専門性を生かして訪問支援を早くから包括的・集中的に行うが、認知症サポート医の不足などが課題となっている。

十勝管内でも同様の状況の中、事業実現に向け十勝総合振興局がパートナーとして協力を求めたのが大江病院だ。同病院は1969年に精神科病院として開設。就労者への夜間診療、遠方患者のためのサテライト診療のほか、治療を継続し再発を防ぐための精神科訪問看護、作業療法士による精神科訪問リハビリテーション、臨床心理士による精神療法などで在宅生活を支援。十勝精神保健協会の各種事業にも関わるなど幅広く活動している。

認知症分野では、97年に重度痴呆疾患入院治療料（54床）、重度痴呆患者デイケア（2）（定員15人）を届け出たのを皮切りに、老人性痴呆指導対策事業として「老人性痴呆疾患センター」を開設。さらに重度認知症デイケアを始め、2013年に認知症疾患医療センターも開設するなどさまざまな取り組みを実施しており、現在、154床のうち54床が認知症病棟となっている。

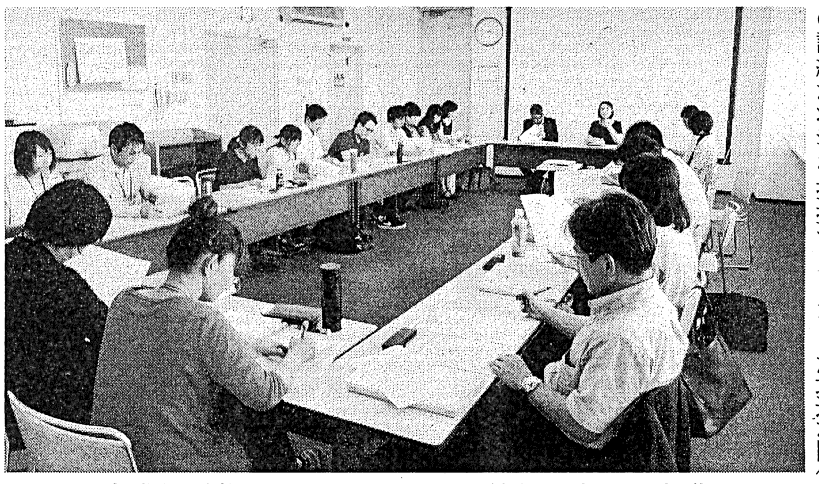
こうした長年の実績によって、管内での認知症治療といえば大江病院という評価が定着。15年度の認知症疾患に関する外来患者数は2万4千人、新患数は1千人を超えている。

同疾患センターでは、14年から市内4カ所の地域包括支援センターと顔の見える関係づくりを目指して、毎月会議を行い、情報交換や困難事例に関する学習会などを開催。15年からは、対象を管内全ての地域包括支援センターに広げている。併せて、同年4月からは認知症患者に対する往診を開始するなど、地域医療に貢献している。

往診は、地域や患者の詳細な状況を把握するのが難しいこともあって、直接患者から依頼を受けるのではなく、必ずその地域の包括支援センターが往診シートを作成し、事前に話し合ったうえで診療を行う形としている。「結果として各地域の包括支援センターとの交流が増え、連携強化にもつながっている」と佐々木雅美センター室長は話す。

◆

こうした地道な関係づくりが進む中で、15年4月に初期集中支援チームの設置に関し、振興局から協力要請があり快諾。すでに各自治体の地域包括支援センターとは交流があったため、設立準備会議での話し合いはスムーズに進捗。「自治体と委託料等の詳細な打ち合わせは、振興局が一手に担ってくれた」（佐々木センター室長）こともあり、帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、清水町、芽室町、中札内村、幕別町、池田町、浦幌町の10市町村合同による初期集中支援チームが実現した。同病院からは大江理事長、佐々木センター室長のほか、大森亮子認知症看護認定看護師が参加している。



多職種が参加してのチーム員最終打ち合わせ会議

10市町村合同は全国的にも珍しい

◆

チーム設置1カ月間で対応したのは4例。包括支援センターから情報提供を受け、初回訪問時に事前打ち合わせを実施。その後、病院スタッフと包括スタッフで訪問し、再度、包括センターで会議を行い、サポート医も含めたチーム員会議の日取りと今後の流れを話し合うため、1件当たり半日を要する。

院内で行うチーム員会議は、参加するサポート医が大江病院の医師であるため、普段から接する機会が多く、会議以外の場でも気軽に相談する間柄とあって、情報共有が円滑にできている。

まだ実績は少ないものの、訪問を行っていない自治体にも実際の様子を知ってもらえるよう、今後は参加自治体にはチーム員会議の様子を公開する計画だ。また、訪問対象者の似顔絵などを使って、事前にサポート医により多くの情報を伝え、さらに円滑に支援していく考えだ。

こうした取り組みは十勝方式として注目され、道外からも見学者が訪れている。しかし、同病院では「徐々に管内でサポート医が増えていることもあり、2～3年継続した後は、各自治体が独自に進めていくのも一つの方法」とみている。